

道徳科学習指導案

指導者

- 1 日 時 令和6年12月 4日（水） 5校時
- 2 学 年 自閉症・情緒障害特別支援学級
第1学年 1名 第2学年 4名 （5名）
- 3 主題名 「だれにでもやさしく」 [B 親切、思いやり]

4 ねらい

激しい嵐の中、りすの元へ飛んでいく小鳥の気持ちを考えることを通して、親切にすることで、相手も自分も、周りの人たちも温かい気持ちになることに気づき、困っている人に優しく接しようとする心情を育てる。

- 5 教材名 「ぐみの木と小鳥」
（「小学どうとく 生きる力2」 日本文教出版）

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第1学年及び第2学年の指導内容B [親切、思いやり] 「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」に基づくものである。これは、第3学年及び第4学年では、「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」第5学年及び第6学年「誰に対しても思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って親切にすることに」に繋がっていく。

自分のことばかりを考えたり、自分の思だけを主張したりしては望ましい人間関係を構築することはできない。誰に対しても温かい気持ちで身近に寄り添い、心を尽くしていくことで、よりよい人間関係が築かれ、多くの人と関りを持ち、自分の人生を豊かにしていくことができると考える。相手のことを考え、優しく接し、親切にできるように考え、本主題を設定した。

○児童観

○指導観

本教材は、「ぐみの木」が「りす」を心配し、「りす」のことを心配する「ぐみの木」の代わりに「小鳥」が「りす」を献身的に支え、励ます話である。ある嵐の日、「小鳥」は「りす」のところへ行こうか行くまいかとじっと考えるが、病気の「りす」を思いやる気持ちから、力をふりしぼって、ぐみの実を届けに行く。「小鳥」の「りす」を思う「温かな心」に気づくことのできる教材である。

指導に当たっては、児童が主体的に考え、自分の考えだけでなく、友達の考えを聞き、自分の生活を振り返ることで、道徳的価値にせまりたい。そのために次の4点に留意する。

- ① 導入では、話の内容を掴みやすくするため、アニメーションを活用して教材提示を行う。また、ペープサートを使い、小鳥がぐみの木とりすの家を何度も往復した様子を掴ませるための視覚支援を行う。
- ② 展開前段では、ぐみの木のかわりに、病気のりすさんに会ったときの小鳥の気持ちや小鳥が次の日も、りすさんをたずねたことからりすさんのために自分ができることをしたいと思っている優しさに共感させる。
- ③ 中心発問では、やみそうもない嵐の中を小鳥がりすさんのところに行こうかどうかを考える場面で、役割演技を行い、揺れ動く小鳥の気持ちを想像させる。心の揺れ動きをハートメーターで表すことで、自他の考えを視覚的に捉えられるようにする。また、「それでも小鳥が、嵐の中を飛び続けたのはなぜだろう。」と発問をすることで、道徳的価値を深めさせる。
- ④ 展開後段では、小鳥のすごいところを語らせ小鳥に手紙を書かせることで、親切にされたときや親切にしてあげたときの自分の気持ちと重ね合わせ、道徳的価値の自覚へとつなげていく。

7 準備物

挿絵、ペープサート、手紙ワークシート、道徳ノート、掲示用ハートメーター、テレビ Chromebook (ハートメーター)

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	○留意点●評価
導入 (3分)	1 課題意識をもつ。	<p>○親切にされてうれしかったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊んでくれた。 ・困っているとき、教えてくれた。 ・何かをかしてくれた。 ・転んだときに、「大丈夫。」と言ってくれた。 	<p>○自分が親切にしてもらったときのことを、想起させることで、課題に繋げる。</p> <p>○思いつかない児童には、教室に掲示してある「うれしかった木」を見せながら、うれしかったときの気持ちを振り返らせる。</p>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>親切にするには、どんな気持ちが必要なのだろう。</p> </div>	

2 「ぐみの木と小鳥」を読んで考え、話し合う。

- りすさんが、涙を浮かべて「だいぶ良くなりました。どうか、ぐみの木さんによろしくね。」と言ったのを聞いて、小鳥はどう思ったでしょう。
- ・ もってきて来て良かった。
- ・ りすさんが元気になってくれてうれしい。
- ・ 明日も来るよ。
- ・ ぐみの木さんに早く伝えよう。
- ・ 元気になるまで、運んであげよう。
- ・ いいことをしたんだ。良かった。
- ・ ぐみの木さんに早く会わせてあげたいな。

- 嵐を見ながら小鳥はどんなことを考えているでしょう。
- ・ りすさんの病気が気になるな。
- ・ りすさんが待っている。
- ・ あんなに喜んでくれたから。
- ・ ぐみの木さんのかわりに行かないや。
- ・ 早く、嵐がやんでほしい。

【中心発問】

○小鳥はどんなことを考えて飛び立ったのだろう。

- ・ 早く行かないと、りすさんが弱っ

○話の内容を掴みやすくするため、アニメーションを活用して教材提示を行う。

○ペーパーサートを使って小鳥がぐみの木とりすの家を何度も往復した様子を掴ませる。

○りすやぐみの木のために行動できたことを喜ぶとともに、「りすさんが元気になるまでは力になりたい」というりすを思う温かな気持ちを共感的に捉えさせる。

○小鳥が次の日もりすさんをたずねたことからりすへのやさしさに気付かせる。

○嵐の様子を効果音で表現し、小鳥の気持ちを想像させる。

○Chromebookで「ハートメーター」を用いて、りすさんのところに行きたいと思う気持ちはどれぐらいかバロメーターで表し、その理由も言わせる。

○役割演技をし、小鳥の心が揺れ動いていることに気付かせる。

3 自分の生活を振り返る。

- てしまう。
- ・ここでやめたら、りすさん悲しむだろうな。
- ・りすさんは、待っていてくれる。行かなくちゃ。
- ・ぐみの木さんも心配している。

【考えを深める発問】

○小鳥さんは、それでも飛び続けたのはなぜでしょう。

- ・どうしても届けたい。
 - ・りすさんが喜んでくれる。
 - ・ぐみの木さんも喜んでくれる。
 - ・りすさんを助けたい。
- 小鳥のすごいと思うところはどこですか。
- ・嵐の中でも飛んでいったところ。
 - ・りすのことを心配する優しい気持ちを強くもっている。
 - ・自分が助けるという思い。
- 親切にするために、大切な気持ちは、どんなことでしょうか。
- ・相手のことを思う気持ち。
 - ・相手が喜んでくれるようにする気持ち。
 - ・また、助けてあげたいと思う気持ち。

○嵐を見ながら考えているときと今の小鳥さんの気持ちを「ハートメーター」を用いて比較することで、より相手のことを考えて行動したことを抑える。

○小鳥への手紙を書くことで、自分も親切にされたことやした経験と重ね合わせ、道徳的価値の自覚へとつなげる。

○書くことが苦手な児童へは、予想される文章をいくつか準備し、その中から選んで書けるようにする。

●困っている人に温かい心で接していくことの大切さについて考えを深めている。
(道徳ノート・発言)

【キーワード】

- ・相手を思う。
- ・自分もうれしくなる。

終末 (5分)	4 学習の振り返りをする。	○今日の学習を振り返りましょう。 ・親切にした人もされた人も気持ちがよくなる。 ・優しい気持ちになれる。	○日常生活が結びつかない児童には、教師が日常化に結び付けられるような声掛けを行い、身近なこととして捉えさせる。 ○「うれしかった木」を継続して取り組むことを話し、学級の中が笑顔になれるようにしようという気持ちをもたせる。
------------	---------------	--	---

9 板書



10 成果と課題 (成果…○ 課題…●)

- 話の内容を掴みやすくするため、アニメーションを活用して教材提示を行ったことで、話の概要を掴むことができ、役割演技等に生かすことができた。
- 役割演技をし、小鳥が嵐を見ながら考えているときと飛び立った小鳥さんの気持ちを「ハートメーター」を用いて比較することで、より相手のことを考えて行動したことに気付かせることができた。
- 役割演技だけでなく、顔表情マークを取り入れたことで、小鳥さんの心情にせまることができた。
- 学習前と学習後の「親切にするには」の問いかけに対して、学習後では、「相手を心配すること」「相手の気持ちを考える」等深まった考えを出すことができた。
- 自分の考えを発表することはできたが、友達のことを聞き、じっくりと考えることはできにくかった。

11 今後に向けて

- 互いの考えを聞き合い、友達のよさを自分の生活に生かしていけるように、日常生活の場面において、事例をもとに学習し互いを大切にできる環境をつくっていく。